

令和七年度 町戦没者追悼平和祈念式

ここに、令和七年度立山町戦没者追悼平和祈念式を挙げるにあたり、謹んで追悼の辞を申し上げます。

先の大戦において、祖国や家族のために戦場で斃（たお）れた軍人・軍属二百三十万人と、戦火に焼かれ、あるいは遠い海に飲み込まれた民間人八十万人、合わせて三百十万人の戦没者に哀悼の誠を捧げます。

また、我が国だけでなく、アジア近隣諸国だけでも千七百万人とも言われる犠牲者がおられます。そして、その数倍ものご遺族の悲しみ、苦しみがあったことも忘れてはなりません。戦争による全ての犠牲者に心からお悔やみを申し上げます。

七十九年前、先人は、二度と戦争を起こさないと日本国憲法で誓いました。

前文には、「われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ」とあります。

しかし、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻から三年半、イスラエルのガザ地区攻撃から二年になろうとしています、私たちは戦争を止めることができていません。

NHK 連続テレビ小説「あんぱん」は、アニメ「アンパンマン」の原作者である、やなせたかし氏とその妻のぶがモデルとなっています。やなせ氏は生前、自身の従軍経験から、「当時、日本の戦争は『正義』だと信じていたが、突然、その『正義』が逆転する様を目の当たりにした」と語っています。氏は考え抜いた末、「正義の味方であれば、まずは飢える人を助けること」という考えにたどりついたそうです。ガザでは、90 万人以上の子どもが飢えに苦しんでいると報道されています。

また、憲法前文には、「いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって」と書かれています。

先の参議院議員選挙では、「日本なんだから日本人を一番に考えるのは当たり前ですよ」と、日本人ファーストをあっさり語る国会議員がおり、それに賛同する国民が大勢いたことに驚きました。世界中で台頭する排外主義、ポピュリズム

ムの波が日本にまで来たのかと驚き、新聞をはじめとするマスメディアがいくつもあるにもかかわらず、切り取られた動画、SNS のみを情報源とし、それを「正義」と信じて疑わない人が大勢いる。まるで戦前ではないかと憂鬱になりました。

さりとて、いま、この時間も、この地球上で、助けを求めている人がいます。「なぜ、誰も助けにきてくれないのか？」と泣き叫ぶ子どもたちがいるのです。

私たちができること。それは、助けたい。何とかしたいという意志の数だけあります。

自国の歴史を学ぶと同時に、他国の歴史や文化を学び、他国の人を尊重できるようになること。

テロや紛争の要因となる貧困や格差をなくすために働きたいと思う若者、国際社会で活躍できる多くの人材を輩出できるよう、学びの環境を整えること。

諸外国の動向に関心をもち、諸外国の我が国への期待を受け止め、私たちが為すべきことを説明できるリーダーを選ぶこと。

私たちが現実から目を逸らさないこと。あきらめないこと。これが、御霊や、一家の大黒柱を失い、壮絶なご苦勞をされてきたご遺族、それぞれの願いに応えるための一歩になると信じています。

おわりに、本日、ご参列いただいたご遺族、関係各位のご多幸をお祈りし、私の式辞といたします。

令和七年八月五日

立山町長 舟橋貴之